

## 第1回大分県長期教育計画委員会 委員発言要旨

NO	大分類	小分類	主 な 意 見
1	学校教育	学力	「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実について、学校において、どのように進めていくのか、もう少し具体的な方策の記述があってもいいのでは。
2		高校教育	「⑤高校教育の充実」について、進学力や就職力の強化は重要な課題であるので、具体的な取組などで考えていけたらいいのではないか。
3		幼児教育	幼児教育段階でのSTEAM教育について、少子化などによって自然遊びが減っているので、自然遊びでの保育を強化する事で、幼児教育の面では充実すると思う。
4		キャリア教育	現在、担い手不足が大きな問題になっている。そういった中で、子どもたちが、「大分で学びたい」や「大分で就職したい」など、魅力ある大分県になって欲しい。そうするには、③の「主体的に社会の形成に参画できる人材育成」にあるとおり、早い段階から、企業などとの関わり合いを深くしていただきたい。
5		グローバル人材	他県と同じことをしても意味がないので、大分県独自の教育施策があればいいと思う。 例えば、小学校段階から語学を3つ勉強させるとかするとグローバル人材の育成につながっていくのではないか。
6		グローバル人材	中学校卒業段階でCEFR A1レベルを目標年度で60%以上を目指すところがあるが、興味関心がない子どもにとってはすごく難しい目標である反面、関心がある子どもにとっては英検3級程度は低い目標だと思う。

# 第1回大分県長期教育計画委員会 委員発言要旨

NO	大分類	小分類	主 な 意 見
7	学校教育	グローバル人材	<p>大分には廣津留すみれさんのような世界に羽ばたいた素晴らしい事例があるが、このような世界標準を求めるのか、それとも日本標準を求めるのかといったことを教職員指導の中で共通認識を図ることが必要。私はこれからはやはり世界標準を見ていかないとグローバル化やデジタル化に対応できる人材が育っていかないとと思う。大分県の学校では情報科学高校がこれまで工業科と商業科だったのものをデジタル化に対応した学校に変えた好事例もある。このような好事例を横展開することで世界に羽ばたけるような人材が育っていくのではないかと。</p> <p>また、国が子どもたちに世界へチャレンジする機会を与えているが、大分県でもそのように大分から世界に羽ばたけるような独自プロジェクトがあれば良い。</p>
8		子どもの居場所	<p>従来の教育体制の中で、最も課題に挙げられている、「子どもたちが学校から離れている」といった現状があり、本当に子どもたちの居場所があるのか、充実した学校教育になっているのか、問われている。</p>
9		不登校	<p>不登校について打つ手がなく非常に悩ましい状況である。様々な外部支援を活用しているが、子どもの心の内面に入った事が出来ていない。小学校に入学しても、その段階から学校に行きづらい子どもが発生しているため、幼児教育の在り方の見直しと幼少の接続をきめ細やかにする必要があると思う。</p>
10		不登校	<p>県内に20近くフリースクールがあるが、フリースクールは法律で定められた学校ではないので、運営をしている代表の意見や考えなどに左右される個性的な教育の場であると思う。</p> <p>フリースクール連合会では、各フリースクールが子どもたちの教育機会を保障出来る教育現場になるように、そこで働くスタッフに対する研修などを行っている。可能であれば県がフリースクールへのサポートをフリースクール連合会に委託してもらえると学校現場以外の教育の場がもっと面白いものになるのではないかと。</p>

# 第1回大分県長期教育計画委員会 委員発言要旨

NO	大分類	小分類	主 な 意 見
11	学校教育	防災教育	<p>「(3)安全・安心で質の高い教育環境の確保」について、「②安全・安心な教育環境の整備」の黒ポツ1つ目に「学校の立地環境等、地域の実情に応じた防災教育の推進」が具体的に何をすることを意味しているかわかりにくい。私は学校で防災教育の講座を開いているが、これからは地域の事情を把握している学校の教員が子どもたちに教えていく時代ではないかと思う。そのためには学校に配置している防災教育コーディネーターの研修を県が充実させていくことが重要。</p>
12		学校選択	<p>保護者の子どもの育て方や子どもの捉え方が多様化しており、その多様化が社会的に認められつつあるが、学校現場があまり多様化に対応出来ていないと思う。社会の流れと学校現場とのギャップをどのように埋めていくのかだったり、学校を選べるようにするといった政策を考えるべきだと思う。</p>
13	社会教育	生涯学習	<p>資料2の17Pの主な取組に「地域の学習拠点としての公民館・図書館などの機能強化」とあるが、公共施設単体では、なかなか利用が進まず、複合施設の方が利用されやすい。拠点機能の強化のためには、施設の複合化という視点が大事ではないか。</p>
14		家庭教育支援	<p>取組について、地域と共に子育てや企業・産業とともに子育てをする。といった視点が少ないと感じた。</p>

# 第1回大分県長期教育計画委員会 委員発言要旨

NO	大分類	小分類	主 な 意 見
15	社会教育	家庭教育支援	<p>不登校を含め、学校の先生が様々なことに向き合ってください中、親世代としては、PTAにしる家庭教育学級にしる、興味関心の高い親は参加する(できる)し、そうじゃない方は参加しない(できない)ということ、非常に感じている。</p> <p>放課後の時間に余裕がある家庭は、子どもにたくさん教育機会を確保できるし、余裕がない家庭は確保できない。 また、ゲームの普及により、どんどん体力も減っているし、学習もできない、スポーツもできないという中で生活しており、大変格差を感じる。家庭の余裕を作ることが、教育とか子どもに直結するのではないか。</p> <p>SSWが学校に入ってきてくれているが、家庭が申請すれば受けられるサービスが県内にはたくさんある点をもっと詳しく知ってもらった上で、家庭に余裕を作るっていう視点も込みで、子どもの教育を考えてもらえるとよい。</p> <p>子どもに熱心な教育を確保するという視点からいくと、どうしても保護者には「仕事があるし、余裕がない」という反応を受けて、そこで終わってしまう。</p> <p>フリースクールは、教育だけでなく福祉の視点から、保護者が熱を出したらご飯を作ったり、部屋の掃除をしたり、子どもに全く関係ない助言をするなど、かなり多岐にわたってサポートを行っているが、そうしなければ子どもを育てないと難しい部分がある。</p> <p>フリースクールで実践している中で、保護者に余裕ができることが、何よりも子どもの教育の充実につながるっていうのが実感としてある。</p> <p>ぜひSSWを活用した、家庭へのアプローチっていう視点からの施策も検討してもらいたい。</p>